



石神井南中学校 学校だより

平成30年度 第7号
発行日 12月20日(木)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊克宣

「 ストローから考える 」(道徳朝礼から)

校長 田邊 克宣

第3回目の道徳朝礼(11/19)では、壇上で一本のストローを示し、全校生徒に問いかけました。「私は給食でストローを使いません。なぜでしょうか。それを考えてください。そして、考えたことを、友達と話し合ってください。」と。後日に記入してもらったワークシートからは、3年生は65%、2年生は25%が、それぞれ内容の違いはあるものの、環境問題に関わることだと考えたようです。

第4回目の道徳朝礼(12/10)では、私の考えの背景となったことを、少し詳しく話しました。世界の海で起きている事、日本の周りで起きている事、東京湾で起きている事。ウミガメや、ウミドリや、イワシの事。それらが、日々の我々の生活と直結していることを、画像と共に伝えました。

さらに、日本では年間915万tのプラスチックゴミが排出され、世界では年間800万tのそれが海に流れ出している事実と、それに対して、1本のストローの重さはたった0.29gであるという現実も。

この2回の道徳朝礼を終え、生徒たちの反応も様々でした。そんなことはどうに知っているという者もいれば、新たに考えを深められたという者もいて、何人かの生徒は校長室に話をしに来てくれました。1年生は、学級で使わなかったストローを持ってきてくれました。

世の中では、すでに取り組みが始まっています。代替品として、紙や木、さらにはトウモロコシのストローが出始めました。この問題一つとっても、世界は、確実に変わっていきます。急激に変化していく世界の中で、何も考えずに受け身的に行動するのか、たった0.29gでも自分の意思で行動を起こすのか。

行動するためには、まず、自分の考えをしっかりと持つことです。考えの根拠となるのは、知識です。ただし、全世界に瞬時に発信される多くの情報を、ただ知っているだけでは知識とは言えません。それに基づく知恵を育むことによって、情報は、確かな知識となるのです。

そして、自分の考えを他者に伝え、同時に他者の考えや思いをきちんと聴くことが肝要です。加速度的に進む社会のグローバル化の中にあっては、他者との価値観のぶつかり合いもさらに増えていくことでしょう。そうした中、皆が互いによりよく生きていける世界を創っていくためには、受容の姿勢をもつことが必要です。忘れてはいけないことが、いわゆる「正しい」ことは、一つとは限らない、ということです。一人一人の価値観や思い、考えは、その全てが尊重されるべきものです。もちろん、人を傷付けたり、おとしめたりすることを肯定するものでないことは言わずもがなです。未来を創る子供たちには、他者と話し合い、互いの考えを知り、歩み寄り、認め合う姿勢をもって、皆がよりよく生きる世界の担い手となってほしいと願っています。

私は今、ストローの束を見ながら、これからどうしようかと思案中です。ご家庭でも、一本のストローを前に、一人の大人として、お子様と真剣に話し合う時間をもっていたいただけたらと思います。

新たな年を迎えます。

保護者並びに地域の皆さまには、この一年の、本校へのご支援に心より感謝するとともに、来る年もどうぞよろしくお願い申し上げます。